

ぼくの町を美しく守る煙突のひみつ

借陰小学校五年 黒川諒也

ぼくは、清掃センターの施設見学に行きました。そのホルスタイン柄のめだつ高い煙突が白い煙を上げている堂々とした姿は、ぼくの家からも見えます。川ぞいの広いしき地にはたくさんの車が入りし、その煙は夜も立ちのぼっています。ゴミをもやした熱を再利用してほたるを飼育したり、一年中温水プールを営業したりしています。昼も夜もいそがしそうに人びとが働いているので、ぼくはそのしくみを見学に行きたいと思いました。

門を入るとまず計量所です。車ごとにはかりになった路面に乗ると受付で番号札を渡しています。帰にまたそこで計量し、ゴミの重さが計算されると、キロ六十円で料金をはらうしくみです。ぼくがそこに立つと、三十キロと表示されました。一の位を四捨五入して、十キロ単位で表示するそうです。それから投入ステーションに上がり、車からゴミピットへ

枚数 1/3

※コピーしてお使いください

みが入投入され、UFDキャッチャーのような  
 グレーンで、ごみがかくはんされる様子を見  
 学しました。ここはもえるごみのしよ理し設  
 なので、水分量が一定になるようにまぜて、  
 もやす効率をよくしているそうです。一日十  
 五トンから百トンのごみが持ちこまれ、一週  
 間ためたものを次の週から二週間、朝昼連続  
 でもやすそうです。まずバーナーで炉を二百  
 度に温め、有毒ガスが出ないとされる八百五  
 十度になるように調整し、カメラでかん視を  
 続けます。一日七十五トンのごみがたった三  
 時間で灰になるそうです。炉は四重構造で断  
 熱され、かべに手がふれても安全です。灰は  
 よ上にあがる飛灰<sup>ひばい</sup>と下にたまる灰があり、飛  
 灰にはダイオキシンなどの有害物がふくまれ  
 るため、かく散しないよう静電気を利用した  
 集じん機で集め、キレート剤で固めて地面に  
 出ないようにして最終しよ分場にうめるそう  
 です。それらは機械で自動化されていて、職  
 員にも地いきの人にも安全です。並行方式と

枚数 2/3

※コピーしてお使いください

言われるやり方で焼きやく口の空気をすいこ  
 み、<sup>おしこ</sup>押し込み送風機でもやすための空気を送る  
 事で負圧の状態にして灰がし設から出ないよ  
 う工夫している所がすごいと思いました。総  
 工費は十八億三千二百万円だそうです。設備  
 の耐用年数をきくと、建物は五十年、機械は  
 十年、炉のレンガは五年に一度はリかえるそ  
 うです。でもできるだけいためなないようにそ  
 うじやメンテナンスをし、パッキンをいため  
 ない温度調節と二まめな部分交かんて大切に  
 使用していると聞いて、心を動かされました。  
 そして酸素、塩化水素、一酸化炭素、イオウ  
 化合物、ちっ素化合物の濃度はつねにそく定  
 をして安全管理をしているそうです。

この見学を終えて、大切なし設を安全に長  
 く利用し、また職員の人に迷わくがかからな  
 いよう、ぼくはごみのげん量と分べつリサイ  
 クルをいっそう心がけていきたいと強く思い  
 ました。ぼくの町の美しさをこれからもずつ  
 と守っていくために。